（１）博士学位

【2008 年度】

・齋藤一晴『歴史対話論　東アジアにおける共通歴史教材開発の成果と課題』
・渡辺　滋『日本古代の「文書主義」に関する一考察 －社会における文字利用の特質を検討するために－』
・吉田達矢『19 世紀半ばのオスマン帝国における東方正教徒の動向と帝国政府の統合政策』
・上田直美『中国古代の家族－秦律・漢律からみた家族の「関係」と社会秩序－』

【2009 年度】

・岡本彰子『古代日本の神話と「性」』
・玄 仙令『「もの」を述語に持つ日本語構文の研究』
・王　鼎『日本語助数詞の史的展開についての研究』
・高橋麻織『『源氏物語』における政治と後宮制度に関する研究 －『源氏物語』准拠論から「物語と歴史」の問題へ－』
・関口祐未『藤原定家の物語摂取ならびに歌書目録の研究』
・木下綾子『菅原道真を通して見た九世紀漢詩文と源氏物語 －文学における太上天皇の思想－』
・久水俊和『室町時代朝廷儀礼における公家と武家』
・松野誠也『日本陸海軍の化学兵器に関する研究』
・福士　純『カナダ商工業利害とイギリス帝国経済（1846 年～1906 年）』
・及川　穣『日本列島における縄文文化の形成過程』

【2010 年度】

・覃 顯 勇『明治時代漢語の展開とその定着についての研究』
・西野入篤男『『源氏物語』と白居易の文学－「長恨歌」と諷諭詩を中心として－』
・木村淳也『『球陽外巻遺老説伝』本文と研究』
・慎 廷 娥『『源氏物語』の注釈史における儒教的道教的言説を媒介にした作品研究』
・山田　純『「典拠表現」から見る八世紀神話テキストの研究』
・伊勢弘志『日本陸軍の国民統制政策と満州事変』
・梶山智史『『十六国春秋』の研究』

（２）修士学位

【2008 年度】

・久保田由香『『源氏物語』における死と月の関係　－月による鎮魂の問題をめぐって－』
・日座　隼『大正時代前期里見弴作品研究　－「昌造もの」に見る変遷とその分析－』
・下森龍二『日本語の接続助詞の研究　－「から」・「ので」・「ため」の用法的差異を中心として－』
・市田　悟『『孝経』理解と日本文学　－孔氏伝・御注から儀礼・日本漢文へ－』
・金木利憲『国書所引漢籍の出典と系統　－藤原定家『奥入』を例にとって－』
・鈴木さち江『『枕草子春曙抄』所引の漢籍注』
・海藤慶次『太宰治「東京八景」論』
・水野智子『内教坊の歴史的意義の変遷－平安時代前期を中心に－』
・須永　忍『『日本書紀』所載の上毛野氏関係記事について』
・石橋星志『戦時期の大学における慰霊と顕彰　－明治大学の戦争遺跡を中心に－』
・喬 暁 光『日本の植民地における炭鉱経営の本質　－満鉄撫順炭鉱の把頭制度を中心に－』
・森　優次『添状発給者からみる豊臣政権奉行の特質』

・藤田嵩之『室町幕府将軍と大名から見る政治体制　－足利義晴期を中心に－』
・神頭佑輔『『令集解』から見た伝馬制の理念と実態について』
・丸浜江里子『杉並区における水爆禁止署名運動の成立　－戦前・戦後の人々の結びつきに注目して－』
・豊嶋優花『魏晋期の鄯善国と西域政策』
・太田早春『五胡十六国北朝期の河北平野・　鄴における県治の置廃と交通路の展開』
・市原慎太郎『雍正年間における雲南南部統治の実相　－雲南省南部の改土帰流事案を中心に－』
・山本和哉『元末明初の詩人高啓に関する一試論－その出処進退を中心に－』
・大竹　直『１５７１年のオスマン朝によるキプロス島征服　－その征服の実情に関する一考察－』
・齊藤泰智『民国初期新疆における楊増新の教育政策（1912～1928 年）－楊増新の思想と教育政策の関係への一考察』
・齊藤理恵『児童と新生活運動　－1934 年，江西省南昌市，縄金塔小学校での実践を一例として－』
・菅野誠人『中世初期ザクセンの在地諸勢力とカロリング権力　－ステリンガの反乱をめぐって－』
・片野ゆうみ『「角閃石安山岩混入埴輪」の基礎的研究　－小泉大塚越３号墳出土埴輪の同工品分析－』

【2009 年度】
・高橋洋貴『ハイヌウェレ型神話に見る供犠と身体性』
・伊與田麻里江『山東京伝の読本研究-『曙草紙』『昔話稲妻表紙』『本朝酔菩提全伝』を中心に-』
・田中ゆうき『『源氏物語』の独詠歌―作中人物の必要と物語の方法―』
・新谷松泰子『安部公房「赤い繭」論-短編小説と短編小説集-』
・田村　悠『谷崎潤一郎《秘密》探求-「秘密」「白昼鬼語」との関連-』
・田中美幸『大伴家持・越中三賦』
・遠藤集子『古事記・日本書紀における三輪山の諸相』
・和田浩彰『式亭三馬の草双紙の文体―助動詞を中心に―』
・北田浩之『杜子春の背景にあるもの－宗教問題を中心として－』
・小俣勇平『文学と食（材）』
・町　純路『宮沢賢治三つの「つらい」死の童話-自意識と死の問題をめぐる考察-』
・芝崎有里子『落窪物語の作品世界-漢籍受容について-』
・白石献人『『晩年』における自伝的作品の研究-「思ひ出」と「道化の華」-』
・金　真美『『源氏物語』第三部における新しい主人公・薫』
・鈴木裕之『古代衛府の職掌に関する考察-令制から延喜式制における変遷を中心に-』
・小磯隆広『1935－1941 年における日本海軍の南進政策－海南島を中心に－』
・加藤　徹『鈴木安蔵研究 - 憲法研究と憲法草案起草を中心に - 』
・坂井飛鳥『明治初期における金融活動と地域社会―銀行・報徳・講にみる「公益」の観念―』
・田中元暁『西周の制度構想と人材育成―幕末期から明治前期を通して―』
・張　韋『後期水戸学と明治維新の推進力』
・渡邉真理子『日本古代後宮制の成立と変容－律令制導入期を中心に－』
・鈴木健功『原内閣期の対満蒙政策―援張政策形成における「外務省実務者」の役割を中心として―』
・漆原拓海『藤原広嗣の乱について』
・岡野樹明『榎本武揚の殖産興業―農商務大臣時代を中心に―』
・野崎龍一『前漢時代における県長吏に関する基礎的考察』
・神田麻美『イギリスの奴隷制廃止運動－1839 年から 1860 年を中心に－』
・穴井　佑『17 世紀イングランドのユダヤ人再入国問題―潜在的な「われわれ」から生身の「彼ら」へ―』

・直井信介『旧石器時代の南関東地方における小地域の把握-AT 下位におけるナイフ形石器の展開を視点として-』
・白石哲也『弥生時代中期後葉における文化交流－相模湾及び駿河湾沿岸を事例として－』
・山崎成子『貝殻沈線文土器の技術的研究―山口県綾羅木郷遺跡出土土器を中心として―』
・亀井健太郎『縄文時代早期後葉土器群の動態と地域性-関東地方から東北地方南部を中心に-』
・高橋　透『７～８世紀の東日本における須恵器の生産と流通』
・中村新之介『信濃における古墳時代中・後期の武器・武具の変遷とその地域性―鉄鏃を中心に―』

【2010 年度】
・山口直美『『古事記』の反乱物語と王権―予見のモチーフを中心に―』
・横田隆宏『「殯から見た古代人の死生観」』
・荒木優太『有島武郎のアナクロニズム―『或る女』と『断橋』の間で―』
・木村愛美『谷崎潤一郎論-身装を中心とした「痴人の愛」成立の行程-』
・林奈央子『志賀直哉「暗夜行路」の生成論的考察―「大津順吉」系草稿を中心に―』
・西森雄大『永井荷風へのアプローチ～年譜と逸話にみる人間性と，作品から覗く内面世界～』
・邵蘂『現代日本語における異体字の使用実態の研究―『読売新聞』を中心に―』
・阿部靖子『戦時下の日本陸軍における知的障害者の排除と受容』
・大堀宙『「大東亜共栄圏」構想の形成と展開―大東亜建設審議会を中心に―』
・花岡敬太郎『戦後の子ども向けヒーロー番組から読みとく戦争の記憶と「忘却」』
・山口隆行『1930 年代初頭の日本海軍部内における「艦隊派」観の再考―末次信正を中心に―』
・柴田真史『関東祗候の貴族に関する研究』
・黄ギョク棋『植民地台湾統治前期における「同化論」と教育現場-知識人の抵抗と受容を考察する-』
・吉葉愛『1920 年代における陸軍軍隊教育の変容－典範令改正を中心に－』
・山口遼『明治時代における勝海舟-海軍時代を主に-』
・石田幹彦『近代移行期における民衆宗教の変容と地域社会-不二道を例として-』
・歌康暢『人間魚雷「回天」―その開発から訓練・生産まで―』
・伊藤希実『唐代の離婚と女性の地位―官僚層を中心として―』
・新井崇之『清代御用瓷器の生産システム-内務府養心殿造 辦処を中心に』
・山田佳那子『ニキータ・パーニンの政治戦略-第一次ポーランド分割を中心に-』
・西川春菜『東関東における縄文時代晩期後半の社会構造-土器型式構造と遺跡分布からみる変化と画期-』
・兒玉まどか『「古墳時代中・後期における竈と竪穴建物の空間利用の変化」－茨城・栃木県域の事例を中心に－』